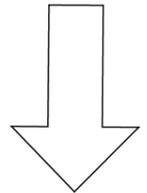


4. 代替案について

出典： 熊本県作成

4. 治水代替案について

(1) 川辺川ダムを考える住民討論集会

ダム反対側	国土交通省 容認・推進側
○ 治水代替案 (平成13年11月)	○ 治水代替案
前提条件 : 基本高水流量 7,000 m ³ /s、 計画高水流量 4,000 m ³ /s (人吉地点)	
<p>(人吉地点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 部分的に河床掘削と堤防(1m)の嵩上げ (約20億円) ※人吉市街部の特殊堤嵩上げ(約4000m)にかかる費用 ※河床掘削については、もともと必要となる費用なので含まない。 <p>(中流部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 堤防、宅地の嵩上げ (約50億円) ※現行計画を修正し、築堤高や地盤高を1.0~2.5m高くした計画に変更。 ※仮に擁壁で嵩上げ施工した場合として試算。 <p>(八代地点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 萩原堤防強化 (0億円) ※現在の事業計画を実施 <p>(遊水地)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成13年12月の第1回住民討論集会で、遊水地候補地として9箇所発表。 ※平成13年11月公表の川辺川研究会のパンフレットの中で、500~1,000 m³/sの洪水調節流量を有する遊水地の整備を提案。 ↓ 平成14年2月の第2回住民討論集会で、500m³/s程度のカットを提案。 ↓ 平成14年6月の第3回住民討論集会で、200~400m³/s程度のカットを提案。 	<p>(人吉地点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 堤防嵩上げ (1,160億円以上) ※川辺川ダムがなければ、人吉地点で堤防の余裕高も含め、2.5mの堤防の嵩上げが必要。 ※40haの用地、550戸の家屋、商店等の移転が必要。橋梁(14基)、道路の嵩上げが必要。 <p>(中流部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路・鉄道嵩上げ (870億円) ※川辺川ダムがなければ、中流部でさらに2.5mの宅地嵩上げが必要。国道219号、JR肥薩線の嵩上げも必要。 <p>(八代地点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 堤防強化 (70億円) <p>(遊水地)</p> <ul style="list-style-type: none"> 錦町、多良木町、免田町に1000haの土地買収が必要。 優良農地を洪水に晒す問題。 深さ7mの遊水地を確保する必要。 今ある田畑にそのまま水を貯めても川辺川ダムの10分の1程度の効果しかない。
	
<p>平成14年12月の第5回住民討論集会で、遊水地については、水源開発問題全国連絡会や国土問題研究会や川辺川研究会等と体系的に検討し直した結果、<u>現在の治水対策の基本は、計画河床をしっかりと掘削して確保すれば、それで十分で、遊水地は現在ではたくさんある案のうちの一つ。</u></p> <p>平成14年12月の第5回住民討論集会で、住民討論集会を通じて随時新しいデータが出てきたから見直し、代替案がより科学的に進化した。 ※そういう意味では過去70億円ということで試算した結果に関しては、川辺川研究会が当時試算した結果という形での位置付けとなっており、<u>統一見解から言ったら70億円という金額はない。</u></p>	

○ 「川辺川ダムの体系的代替案」(平成15年6月)

1. 基本高水流量

・人吉地点 : 5, 500 m³/s

・横石地点 : 7, 800 m³/s

※森林の生長と人工林の針広混交林化推進の効果を考慮して科学的な計算を行った結果、十分な安全度を見た上で、80年に1回の基本高水流量として算出。

2. 治水対策1

(1)「緑のダム構想」の推進

1950年代またはそれ以前の森林の状況を再現するため、球磨川流域の人工林を強間伐して針広混交林化し、洪水ピーク流量の更なる低減を進める。

当面、上流域、中流域の人工林の50%を今後10年間で強間伐することを先行して行い、次の10年間で残りの50%の強間伐を行う。

(2)(人吉地区): 現在でも堤防天端まで許容すれば、概ね5, 400m³/sの流下が可能であるが、安全性を十分に考慮して、1. 5mの余裕高を持って流下できる河道断面を確保する。そのため、計画河床高までの河床掘削を行い、未整備の堤防を整備する。

その場合の流下能力 : 5, 400m³/s

市房ダムの調節量 : 200m³/s

計 : 5, 600m³/s

よって、80年に1回の最大洪水流量5, 500 m³/sへの対応が可能である。

また、流域住民が堤防の余裕高(1. 5m)を固守しない場合は、その程度に応じて河床掘削を調整する。

(中流部地区): ①瀬戸石ダムの堆砂を定期的に除去するか、または荒瀬ダムとともに瀬戸石ダムも撤去して、堆砂による水位上昇をなくす。

②現行計画どおり、計画高水位の洪水に対応できるように、宅地等水防災対策事業(宅地の盛土、家屋の嵩上げ等)や築堤による河川改修を進める。

※ただし、荒瀬ダムより下流および瀬戸石ダム貯水区間より上流の一部の地区については現行計画をレベルアップして、計画高水位+1m程度の洪水位に対応できる河川改修が必要である。しかし、流域の森林整備が100%に近づくとつれて、基本高水流量がさらに低減するので、このレベルアップが不要となる可能性が高い。

(八代地区): 現況堤防の強化工事を行う。

その場合の流下能力 : 8, 600m³/s

市房ダムの調節量 : 200m³/s

計 : 8, 800m³/s

よって、80年に1回の最大洪水流量7, 800m³/sへの対応が可能である。

3. 治水対策2

球磨川流域の治水計画を立てるにあたっては、どの程度の安全度を確保し、どんな方法を選択するのか、流域住民の納得の上で決めるべきであり、河川法に則って住民参加が保証された流域委員会を設置し、その場で決定すべき。

考慮すべき治水対策として、上記治水対策1以外にも以下がある。

(1)遊水地、(2)堤防かさ上げ、(3)堤防余裕高の活用、(4)河床掘削